

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 83 回

『「現代の課題」 ～ 叡智に導かれて、現実をつくる ～』

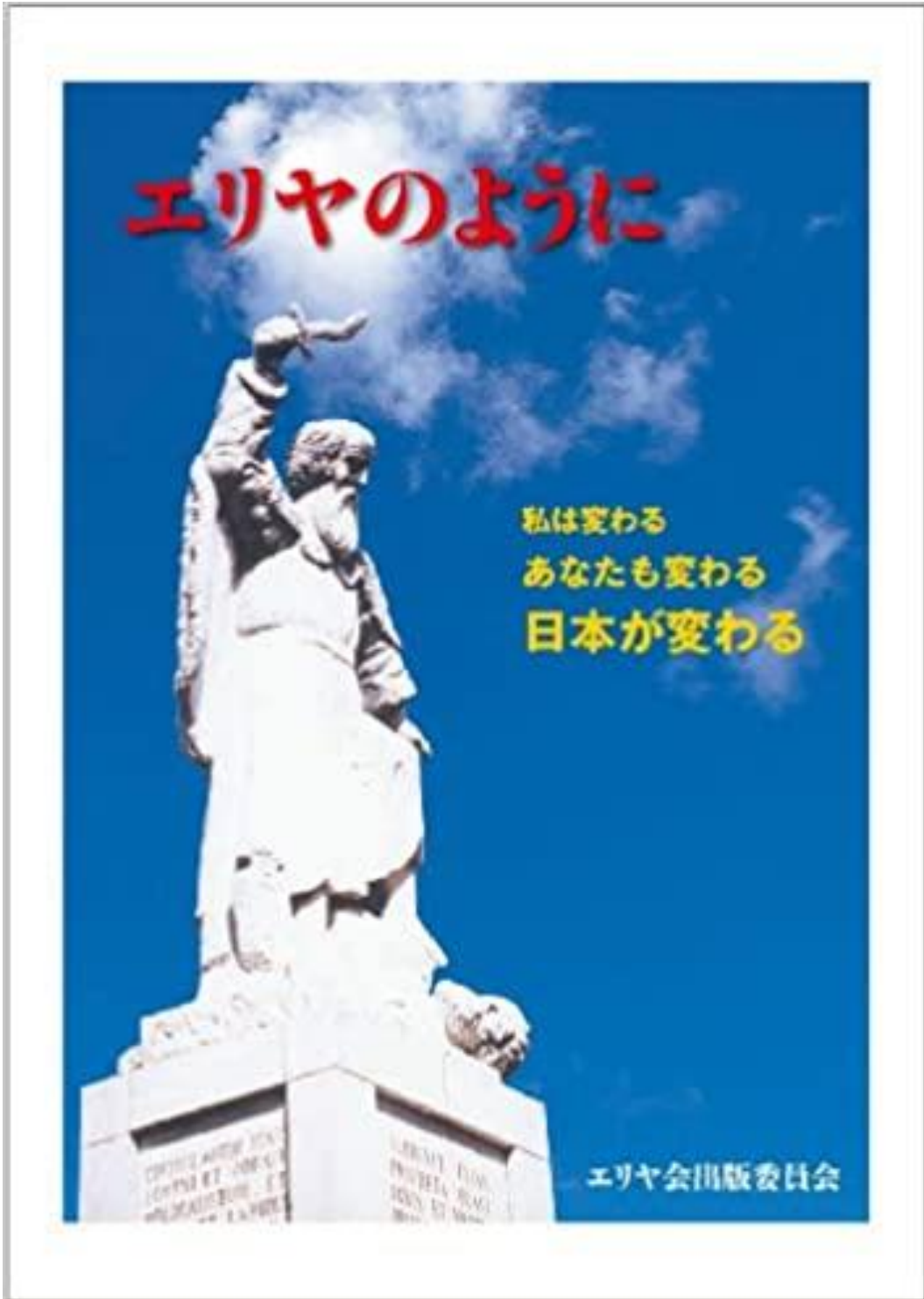
2021年11月15日恵泉女学園大学学長の大日向雅美先生から恵泉祭の大学HP『学長の部屋』が送られてきた(画像1)。【恵泉祭の中で行われた「私が考える『生涯就業力』論文コンテスト」表彰式について、ご報告いたします。厳正な審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞3名、入賞者7名が決定し、表彰式を恵泉祭のプログラムの一つとして開催いたしました。表彰式の模様もライブ配信いたしました。アドヴァイザリー・ボードメンバー兼客員教授4名と、学園から樋野興夫 理事長・廣瀬薫 学園長・宇田川篤 本部長、学長室メンバーがご参加くださり、舘野英樹 事務局長の司会で進められました。】と紹介されていた。大いに感激した。

現在、第3代目の南原繁研究会を務める筆者は、2005年5月27日の読書会で、『南原繁著作集第八巻』(岩波書店)の箇所I『「現代の課題」：現代世界の問題と日本 & 人類の新しい時代 & 日本は世界に何を寄与し得るか & 再び岐路に立つ日本 & 平和と独立への道 & 世界の危機と日本の将来』を担当したものである。「日本の政治家は、もっと世界に眼を放ち、叡智に導かれて、時代の要求にもとづく歴史の現実をつくり出さなければならない」(南原繁;1889-1974)が、鮮明に思い出される今日この頃である。まさに南原繁は『不思議な助言者』(イザヤ書9章6節)である。

筆者は、以前『エリヤ会』の発足に参画した。「いろいろな機関、グループが調査・研究・討議を重ねて、様々な発表もしてきました。各分野5~6人が月1回集まり、議論を積み重ね、3年という期限を切って出発しました…」と『エリヤのように』(エリヤ会出版委員会;イーグレープ2009年出版)に記述されている(画像2)。エリヤへの励まし「起きて、食べなさい。旅はまだ遠いのだから。」(列王記II 9章7節)は、生涯の歩みの原点であろう!



画像 1



画像 2